

(参考様式第1-1号)生産記録

(炭素貯留効果の高い堆肥の水質保全に資する施用の取組)

組織名	
氏名	

ほ場名	実施面積	作物名(5割低減)

1 堆肥の施用

堆肥の名称(種類)	C/N比	堆肥施用量(kg/10a)	堆肥施用時期(注)	備考(注)

(注)主作物(5割低減取組)後の施用の場合は、施用後に栽培する作物名を備考欄に記入すること。

2 5割低減の取組

(1)作業工程

作業名	実施時期	備考
播種		
定植		
収穫終了日		

(2)使用肥料(1の堆肥以外)

資材等の名称	化学肥料窒素成分の割合(%)	使用時期	使用量(kg/10a)	うち化学肥料窒素成分	慣行の5割低減の水準	備考
				(kgN/10a)(A)	(kgN/10a)(B)	
合計						

(注1) 化学肥料窒素成分を含まない有機質肥料も含めて記入すること(1の堆肥以外)。

(注2) (A)の合計 ≤ (B)の値 となっているか確認すること。

(3)使用農薬

農薬名(剤型等、商品名)	使用時期	化学合成農薬成分回数(C)	慣行の5割低減の水準	備考
			(成分回数)(D)	
合計				

(注1)フェロモン剤、生物農薬等カウントしない農薬も含めて記入すること。

(注2) (C)の合計 ≤ (D)の値 となっているか確認すること。

3 保管書類

施肥管理計画
 土壌診断結果書類
 堆肥の購入伝票等(※)
 堆肥の成分証明書等
 主作物の出荷・販売伝票(10a未満の取組の場合)

※ 堆肥を譲り受ける場合はその証拠書類(伝票、取引書類等)、自給堆肥の場合は堆肥原料、その量、堆肥製造期間、堆肥製造場所、製造した堆肥の量等を記載した書類を保管すること。

(注)保管してある書類名の口に、■または✓を入れること。

(参考様式第1-2号)生産記録

(緑肥の作付け(カバー作物、リビングマルチ、草生栽培)の取組)

※リビングマルチの場合は、該当する作物名の口、■または✓を入れること。

小麦、大麦、イタリアンライグラス

小麦、大麦、イタリアンライグラス以外

組織名	
氏名	

ほ場名	実施面積	作物名(5割低減)	対象活動 (作物名)

1 緑肥の作付け

作業名	実施時期	播種量(kg/10a)	標準播種量(kg/10a) (注1)	備考
播種				
農地還元(すき込み)				
栽培期間(注2)				

(注1)標準播種量には、カタログや都道府県の栽培技術指針等で示されている播種量を記載すること(播種量は、標準播種量以上の播種を行う必要)。

(注2)播種から農地還元までの期間を記載すること。

2 5割低減の取組

(1)主な作業

作業名	実施時期	備考
播種		
定植		
収穫(終了日)		

(2)使用肥料

資材等の名称	化学肥料窒素成分の割合(%)	使用時期	使用量(kg/10a)	うち化学肥料窒素成分 量(kgN/10a) (A)	慣行の5割低減の水準 (kgN/10a) (B)	備考
合計						

(注1)化学肥料窒素成分を含まない有機質肥料も含めて記入すること。

(注2)(A)の合計 ≤ (B)の値となっているか確認すること。

(3)使用農薬

農薬名 (剤型等、商品名)	使用時期	化学合成農薬成分回数 (C)	慣行の5割低減の水準 (成分回数) (D)	備考
合計				

(注1)フェロモン剤、生物農薬等カウントしない農薬も含めて記入すること。

(注2)(C)の合計 ≤ (D)の値となっているか確認すること。

3 保管書類

種子のカタログ等

種子の購入伝票等

主作物の出荷・販売伝票(10a未満の取組の場合)

(注)保管してある書類名の口、■または✓を入れること。

(参考様式第1-3号)生産記録
(不耕起播種の取組)

組織名	
氏名	

ほ場名	実施面積	作物名(5割低減)

1 不耕起播種

作業名	実施時期	備考
茎葉処理型の除草剤の散布		
不耕起播種		

2 5割低減の取組

(1)主な作業

作業名	実施時期	備考
播種		
定植		
収穫(終了日)		

(2)使用肥料

資材等の名称	化学肥料窒素成分の割合(%)	使用時期	使用量(kg/10a)	うち化学肥料窒素成分量(kgN/10a)	慣行の5割低減の水準(kgN/10a)	備考
				(A)	(B)	
合計						

(注1) 化学肥料窒素成分を含まない有機質肥料も含めて記入すること。

(注2) (A)の合計 ≤ (B)の値となっているか確認すること。

(3)使用農薬

農薬名(剤型等、商品名)	使用時期	化学合成農薬成分回数(C)	慣行の5割低減の水準(成分回数)(D)	備考
			(D)	
合計				

(注1) フェロモン剤、生物農薬等カウントしない農薬も含めて記入すること。

(注2) (C)の合計 ≤ (D)の値となっているか確認すること。

3 保管書類

茎葉処理型の除草剤の購入伝票 主作物の出荷・販売伝票(10a未満の取組の場合)

(注) 保管してある書類名の口、 または を入れること。

(参考様式第1-4号)生産記録

長期中干しの取組

組織名	
氏名	

ほ場名	実施面積	作物名(5割低減)

1 長期中干し

実施時期	溝切り実施日	溝切り本数(本/10a)	備考

(注1) 中干しは生育中期に14日以上実施すること。
 (注2) 溝切りは10aあたり1本以上実施すること。

2 5割低減の取組

(1) 主な作業

作業名	実施時期	備考
播種		
定植		
収穫(終了日)		

(2) 使用肥料

資材等の名称	化学肥料窒素成分の割合(%)	使用時期	使用量(kg/10a)	うち化学肥料窒素成分量(kgN/10a)	慣行の5割低減の水準(kgN/10a)	備考
				(A)	(B)	
合計						

(注1) 化学肥料窒素成分を含まない有機質肥料も含めて記入すること。
 (注2) (A)の合計 ≤ (B)の値となっているか確認すること。

(3) 使用農薬

農薬名(剤型等、商品名)	使用時期	化学合成農薬成分回数(C)	慣行の5割低減の水準(成分回数)(D)	備考
			(D)	
合計				

(注1) フェロモン剤、生物農薬等カウントしない農薬も含めて記入すること。
 (注2) (C)の合計 ≤ (D)の値となっているか確認すること。

3 保管書類

主作物の出荷・販売伝票(10a未満の取組の場合)

(注) 保管してある書類名の口には、■または✓を入れること。

(参考様式第1-5号)生産記録

(秋耕の取組)

組織名	
氏名	

ほ場名	実施面積	作物名(5割低減)

1 秋耕

作業名	実施時期	備考
秋耕		

2 5割低減の取組

(1)主な作業

作業名	実施時期	備考
播種		
定植		
収穫(終了日)		

(2)使用肥料

資材等の名称	化学肥料窒素成分の割合(%)	使用時期	使用量(kg/10a)	うち化学肥料窒素成分量(kgN/10a)(A)	慣行の5割低減の水準(kgN/10a)(B)	備考
合計						

(注1) 化学肥料窒素成分を含まない有機質肥料も含めて記入すること。
 (注2) (A)の合計 ≤ (B)の値となっているか確認すること。

(3)使用農薬

農薬名(剤型等、商品名)	使用時期	化学合成農薬成分回数(C)	慣行の5割低減の水準(成分回数)(D)	備考
合計				

(注1) フェロモン剤、生物農薬等カウントしない農薬も含めて記入すること。
 (注2) (C)の合計 ≤ (D)の値となっているか確認すること。

3 保管書類

主作物の出荷・販売伝票(10a未満の取組の場合)

(注) 保管してある書類名の口には、■または✓を入れること。

--

(参考様式第1-6号) 生産記録

(有機農業(化学肥料及び化学合成農薬を使用しない農業)の取組)

組織名	
氏名	

1 農場管理

(1)ほ場

ほ場名	所在地	面積(a)	作物名	区分 (開始時期)	緩衝帯設置 の有無	水管理実施 の有無 (水稲のみ)	収穫 予定時期

(注1) ほ場1筆ごとの状態が把握できる地図を添付すること。

(注2) 同一ほ場であっても、使用資材等の管理が異なるほ場は個別に記載すること。その場合、所在地はすべて同じ記載とすることができる。

(注3) 区分には「有機」又は「転換期間中」と記載する。

(2)使用肥料及び土壌改良資材

資材等の名称	製造者名等	使用目的	使用時期	備考
①堆肥	(堆肥の原材料)			
②肥料				
③土壌改良資材				

(3)土づくり技術

堆肥等有機質資材施用技術

緑肥作物利用技術(緑肥作物の種類:) (実施時期:)

都道府県が定めた技術(内容:) (実施時期:)

(4)使用農薬

農薬名(剤型等、商品名)	製造者名等	使用目的	使用時期	備考

(5)有害動植物の防除

耕種の防除(適地適作の作物や品種の選定、健全種苗の利用、耕起・中耕、被覆植物の利用等)

物理的防除(種子の比重選、光線の遮断、誘蛾灯・防蛾灯の利用、防虫用ネット・粘着トラップの利用、人力又は機械的な除草等)

生物的防除(拮抗微生物の利用、捕食性及び寄生性天敵の利用等)

(6)使用種苗

作物名	種・苗の別	入手方法	購入先	種苗の種類	使用農薬名	有機種苗の入手困難な理由	備考

(7) 周辺から使用禁止資材が飛来又は流入しないような措置

① 緩衝帯の設置

具体的な措置内容	近隣ほ場との隔離距離(m)	備考

② 水管理(水稲取組ほ場のみ記載)

具体的な措置内容	備考

③ 機械・器具

機械・器具名	有機専用 慣行併用	個人使用 共同使用	保管場所	洗浄方法	備考

(8) 組換えDNA技術の利用

組換えDNA技術を利用していない。

(9) 放射線照射

放射線照射を行わない。

2 保管書類

主作物の出荷・販売伝票(10a未滿の取組の場合)

(注) 保管してある書類名の口には、■または✓を入れること。

3 誓約

有機農業を継続的に実施します。

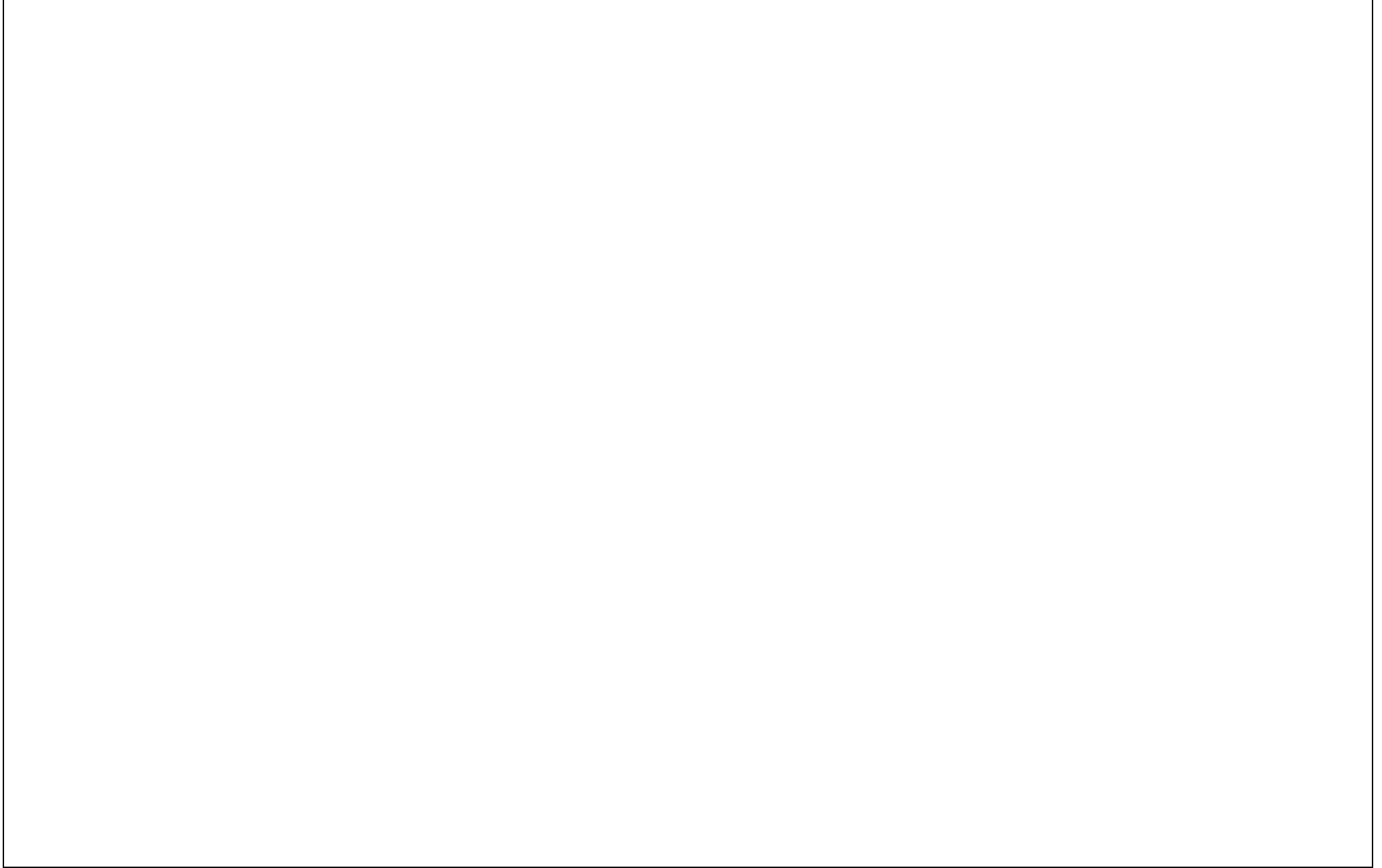
※ 同一ほ場における転換期間中の支援は1度(2年又は3年)となる。転換期間は多年生の植物から収穫される農産物にあつては3年間、それ以外の農産物にあつては2年間となる。

コーデックスガイドラインにおいて、「有機農産物生産への転換中の区域は、転換済みの区域と同様に、有機農法と慣行農法を交互に行つてはならない(交互に切り替えてはならない)。』と規定されている。

(別添)

ほ場地図

氏名: _____



(参考様式第1-7号)生産記録

有機農業の加算措置の取組（炭素貯留効果の高い堆肥の水質保全に資する施用の取組）

組織名	
氏名	

ほ場名	実施面積	作物名

1 堆肥の施用

堆肥の名称(種類)	C/N比	堆肥施用量(kg/10a)	堆肥施用時期(注)	備考(注)

(注)主作物の栽培後に施用する場合は、施用後に栽培する作物名を備考欄に記入すること。

2 保管書類

施肥管理計画 堆肥の購入伝票等(※) 堆肥の成分証明書等

※ 堆肥を譲り受ける場合はその証拠書類(伝票、取引書類等)、自給堆肥の場合は堆肥原料、その量、堆肥製造期間、堆肥製造場所、製造した堆肥の量等を記載した書類を保管すること。

(注)保管してある書類名の口、■または✓を入れること。

(参考様式第1-8号)生産記録

有機農業の加算措置の取組（緑肥の作付け（カバークロープ、リビングマルチ、草生栽培）の取組）

組織名	
氏名	

ほ場名	実施面積	作物名	対象活動
			(作物名)

1 緑肥の作付け

作業名	実施時期	播種量(kg/10a)	標準播種量(kg/10a) (注1)	備考
播種				
農地還元(すき込み)				
栽培期間(注2)				

(注1) 標準播種量には、カタログや都道府県の栽培技術指針等で示されている播種量を記載すること(播種量は、標準播種量以上の播種を行う必要)。

(注2) 播種から農地還元までの期間を記載すること。

2 保管書類

種子のカタログ等

種子の購入伝票等

(注) 保管してある書類名の口にも、■または✓を入れること。

(参考様式第1-9号)生産記録

(江の設置) 作溝実施 作溝未実施 ← (注) 該当する項目の口に、■または✓を入れること。

※ 江の設置のほか、同様の取組である「夏期の水田内ビオトープ(生き物緩衝地帯)の設置」、「簡易ビオトープの設置」、「生き物緩衝地帯の設置」、「水田ビオトープ」を含む。

組織名	
氏名	

ほ場名	実施面積	作物名(5割低減)

1 江の設置

(1) 主な作業

作業名	実施状況	実施時期	備考
作溝作業(新設)	長さ: m 水面幅: cm 深さ: cm		
作溝作業(延長)	延長: m		
作溝作業(補修)			
作溝未作業(江の形状)	長さ: m 水面幅: cm 深さ: cm		
定期的な水位管理			
生きもの調査			

(2) 江の設置箇所への除草剤の使用実績
(本田内の除草剤使用実績を除く)

江の設置箇所への除草剤 使用なし ・ 使用あり (注) 該当する項目を○で囲むこと。
--

(3) 設置期間

	実施時期	備考
湛水開始時期		
排水開始時期		
湛水期間		

2 5割低減の取組

(1) 主な作業

作業名	実施時期	備考
播種		
定植		
収穫(終了日)		

(2) 使用肥料

資材等の名称	化学肥料窒素成分の割合(%)	使用時期	使用量(kg/10a)	うち化学肥料窒素成分量(kgN/10a)(A)	慣行の5割低減の水準(kgN/10a)(B)	備考
合計						

(注1) 化学肥料窒素成分を含まない有機質肥料も含めて記入すること。
(注2) (A)の合計 ≤ (B)の値となっているか確認すること。

(3) 使用農薬

農薬名(剤型等、商品名)	使用時期	化学合成農薬成分回数(C)	慣行の5割低減の水準(成分回数)(D)	備考
合計				

(注1) フェロモン剤、生物農薬等カウントしない農薬も含めて記入すること。
(注2) (C)の合計 ≤ (D)の値となっているか確認すること。

3 保管書類

江の設置(新設・延長・補修)図または写真 生きもの調査の結果が記載された書類 出荷・販売伝票(10a未満の取組の場合)

(注) 保管してある書類名の口に、■または✓を入れること。

(参考様式第1-10号)生産記録

(冬期湛水管理) 有機質肥料施用、畦補強等実施 有機質肥料施用、畦補強等未実施 有機質肥料未施用、畦補強等実施 有機質肥料未施用、畦補強等未実施
 (注)該当する項目の□に、■または✓を入れること。

組織名	
氏名	

ほ場名	実施面積	作物名(5割低減)

1 冬期湛水管理

(1)主な作業

作業名	措置方法 (措置番号を記載)	実施時期	備考
取水措置			
漏水防止措置			
定期的な水位管理			
生きもの調査			

(措置番号)

取水措置	漏水防止措置
① 地下水をくみあげ	① 畦塗り
② 排水路の水をくみ上げ	② 畦畔シートの設置
③ 水権利のある農業用水からの取水	③ 定期的なほ場巡回による畦畔等の補修
④ その他(具体的に記載すること)	④ プラスチック製の畦畔カバー
	⑤ コンクリートブロック
	⑥ その他(具体的に記載すること)

(2)湛水期間

	実施時期	備考
湛水開始時期		
排水開始時期		
湛水期間		

(3)有機質肥料の施用

資材等の名称	使用時期	使用量(kg/10a)	購入金額(注)
合計			

(注)購入金額の欄には、10a当たりの金額を記載すること。

2 5割低減の取組

(1)主な作業

作業名	実施時期	備考
播種		
定植		
収穫(終了日)		

(2)使用肥料 (1(3)の有機質肥料以外)

資材等の名称	化学肥料窒素成分の割合(%)	使用時期	使用量(kg/10a)	うち化学肥料窒素成分量	慣行の5割低減の水準	備考
				(kgN/10a)(A)	(kgN/10a)(B)	
合計						

(注1)化学肥料窒素成分を含まない有機質肥料も含めて記入すること。

(注2)(A)の合計 ≤ (B)の値となっているか確認すること。

(3)使用農薬

農薬名 (剤型等、商品名)	使用時期	化学合成農薬成分回数 (C)	慣行の5割低減の水準	備考
			(成分回数) (D)	
合計				

(注1)フェロモン剤、生物農薬等カウントしない農薬も含めて記入すること。

(注2)(C)の合計 ≤ (D)の値となっているか確認すること。

3 保管書類

漏水防止の措置状況がわかる写真(新たに措置を行った場合) 有機質肥料の購入伝票等(※) 生きもの調査の結果が記載された書類 出荷・販売伝票(10a未満の取組の場合)

※ 購入した有機質資材と無償の有機質資材を原料とした自給肥料の場合は、原料の種類・量・購入金額、製造期間、製造場所、製造した肥料の量等を記載した書類を保管すること。

(注)保管してある書類名の□に、■または✓を入れること。